

いもう 葦毛通信



ササユリ

平成 28 年 7 月 12 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町 3 丁目 1
TEL : 0532-56-6060

No. 39

1、平成 27 年度葦毛湿原の動物調査 - 2

ニホンイノシシ

ニホンイノシシは 34 回撮影できましたが、写真と動画で性別等を確認するとかなり偏っていることが分かります。今年のはっきりとオスと確認できる個体はありませんでした。可能性があるのは、7月16日に2頭写っていたものが、オスとメスの可能性がありますが、はっきりと確認できません。

メスだけが写っていたのは3回、メスと子供（幼体）が写っていたのが4回、子供だけが写っていたのが19回、性別不明が7回です。

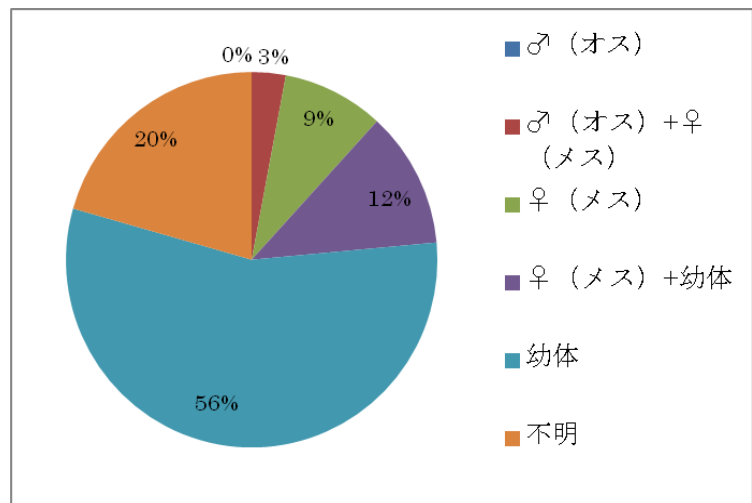
子供だけで活動していることは無いと思いますので、子供だけが写っていたものは、たまたま近くにいた母親が写っていない可能性が高いと考えられます。そうだとすれば、子供が写っていたのは23回で、全体の68%になり、約2/3が母親と子供であった可能性が最も高いと考えられます

ニホンイノシシの撮影傾向は、基本的に昨年と同様で、メスと子供が中心になっています。カメラは沢沿いの段丘の少し高くなった縁に設置しています。体の下半が濡れ、水浴びをしたように見える個体が写っているように（次頁写真下段）、水辺が好きなニホンイノシシの通りやすい場所だったと考えられます。

ニホンイノシシ内訳表

性別等	回数
♂(オス)	0
♂(オス)+♀(メス)	1
♀(メス)	3
♀(メス)+幼体	4
幼体	19
不明	7
合計	34

ニホンイノシシ内訳図



ホンドタヌキ



ホンドキツネ

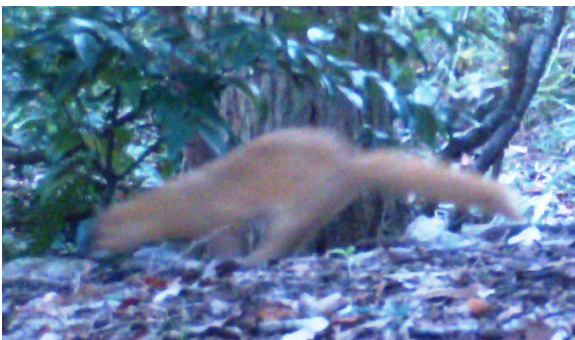
まとめ

自動撮影カメラによる定点観察は同じ場所で2年間行いましたが、基本的にほぼ同じような状況でした。ニホンイノシシの撮影回数は多いのですが、同じメスと子供たちが何回も写っている可能性が考えられます。また、ニホンカモシカ、ホンドテンが写っていましたが、もっと深い山の中に棲息していると思っていました。葦毛湿原のような都市近郊の住宅地近くまで分布を広げてきていたのは意外でした。

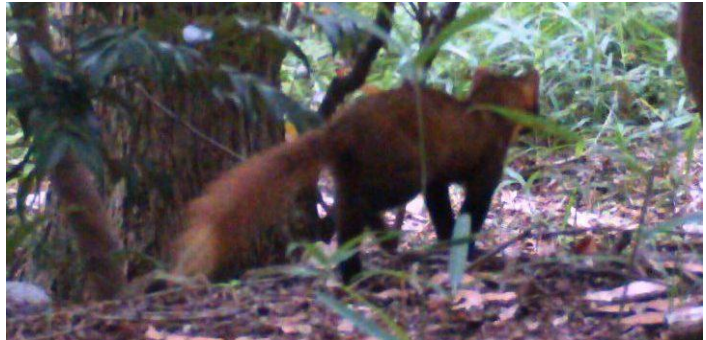
自動撮影カメラによる定点観察は、4月23日から場所を変えました。森ではなく植生回復作業によって開けた場所に出てくる動物を調査し、違いがあるのかを調べます。



ハクビシンの親子



ニホンイタチ



ホンドテン



ニホノウサギ



ニホンイノシシ

2、2016 モニタリング報告ー3

K地点

K地点は、湿地として残っていたところで、全面的な植生回復作業は行わず、平成25年度の作業で、K-1・2地点の2か所の実験区を設定しました。実験区は、第3段階の植生回復作業（葦毛通信 N0.32 参照）の湿地中心部で植生回復作業を行う際のデータを得るために設定しました。最初のK-1地点の設置から3年がたって、ようやく経年変化について、ある程度の見通しが持てるようになりました。

K-1地点

K-1地点は、2×5mの範囲で長方形にネザサ群落を除去したところで、表土もきれいに剥いだところです。

1年目（下写真左）は、地面が雨に叩かれて残った土もほとんど流れて一旦は裸地化しました。その後、一部で両側から土が流れ込み、この部分からトウカイコモウセンゴケが多く発芽しました。ミカヅキグサやシラタマホシクサも1～2個体発芽しました。また、ケシンジュガヤが写真右側から発芽しました。しかし、1年目は、発芽する植物もまばらでした。

2年目（下写真中）になると、画面奥で植物が増えているのが分かります。イヌノハナヒゲが増えて優勢になっています。実験区の両側はヌマガヤやネザサの群落です。

3年目（下写真右）になると、さらにイヌノハナヒゲが増えて、全体がイヌノハナヒゲ群落になりました。しかし、手前の方はまだ礫が見える状態で、ややまばらな状態です。



K-1地点 2014年7月29日
(1年目)

2015年7月11日
(2年目)

2016年7月6日
(3年目)

K-3地点

K-3地点は、平成26年度に、2×4mの範囲でネザサ群落を除去したところです。K-1地点では、表土をすべて剥いで裸地化しましたが、K-3地点では、条件を変えて土をできる限り残すようにしました。ネザサの根を掘り上げて、コンテナに水を入れて根を洗って土を落とし、その水を剥ぎ取ったところに巻き出して、土を残すようにしました。

雨が降ると土は流れ出してしまふので、礫で低い土手を3列、等高線に沿って造り、土が流れ出さないようにしました（右写真左）。土手と土手の間に土が薄く溜まっている状態です。

1年目（右写真左）は、K-1地点と同様に、土手などのやや乾燥気味のところで、トウカイコモウセンゴケが発芽してきました。植物の発芽もまばらで、K-1地点の1年目とほぼ同じような状況です。

2年目（右写真右）は、全体がイヌノハナヒゲ群落になりました。K-1地点の3年目よりも発芽した植物の量が多く、地表面の礫は全く見えない状態です。土をできる限り残したことにより、イヌノハナヒゲが優勢になったものと思われます。



K-3地点 2015年7月11日
(1年目)



2016年7月6日
(2年目)

M-1地点

M-1地点は、平成27年度に、1.8×9mの範囲で、ネザサやコシダの群落を除去したところです。木道を挟んでK-3地点に接続し、連続する一体のものとして設定しました。K-3地点の水がM-1地点に流れ込んでおり、K-3地点の奥（南側）からM-1地点に向かってなだらかに低くなっています。

M-1地点もネザサ等の根の層を除去するだけで土をできるだけ残すようにしましたが、土手は作らずそのままにしました。写真奥に向かって低くなっていますが、奥に行くほど土が厚く堆積しています。

ネザサの根の層を掘っていると、数は少ないですが、ハルリンドウが芽を出していました。そこで、写真右隅の木道下に移植したところ、開花しました。写真左側にはヌマガヤ群落とネザサ群落が広がっていますが、この地点だけで、この春にはハルリンドウが2,000以上開花しました。

M-1地点はK-1・3地点と同様に、1年目は発芽する植物が少ない状況です。また、裸地化して、表土が少ない状態ではハルリンドウは発芽しませんでした。実験区手前の土が少ないところでは、2～3年目にはK-1・3地点と同様にイヌノハナヒゲが優勢になると予想しています。



M-1地点 2016年7月6日
(1年目)